

# 調査官室

## だより

### 現役調査官にインタビュー！

### なぜ、調査官になろうと思いましたか？

Aさん(法学部法律学科)  
採用6年目



調査官の存在を知ったのは大学生のときです。もともと犯罪学に興味があり、少年事件に携われる調査官は自分の興味に合う仕事かもしれないと思い、目指し始めました。

まだ経験が浅いということもあり、事件を担当すればするほど分からないこと、難しいこと、大変なことが出てきてキツイな一と思うこともあります。でも、悩み抜いた結果、少年や当事者が前を向いてくれたときはやりがいを感じますし、そうやって頭を悩ませているときが一番「調査官だなあ」と思う瞬間です。

対人援助、特に子どもへの支援に興味があり、大学時代は海外でストリートチルドレンに関するボランティアをしていました。就職に際して漠然と対人援助に関する仕事を探していたときに調査官の仕事を見つけ、一人ひとりの感情や思いなどに目を向けながら少年や子ども、家庭に向き合う仕事内容に興味を持ち、調査官を目指しました。

大学時代に法律も心理学等も学んだ経験がなく、就職当時は同期の専門性の高さに驚きましたが、就職後の2年間の研修や実務修習で業務に必要な知識は身につきました。これまで家事少年や事務局など色々な仕事を経験しましたが、どれもチームで取り組む体制が整備されており、一人で抱え込まずに済みますし、自分が関わった件で紛争が解決したり、チームで掲げた目標を達成したりしたときに充実感が得られます。

子どもが生まれてからは子育て重視のライフスタイルですが、各種制度を活用し、オンオフどちらも充実した生活を送っています。

Nさん(文学部史学科)  
採用17年目



少年が非行に至る背景に関心があったこと、心理職でも安定した職につきたかったことが、調査官を志した理由です。さらに、裁判所は女性のライフスタイルが変わっても働きやすい職場というイメージがあったことも、私の気持ちを後押ししました。

調査官に任官してからは、今のところ家事係に在籍しています。家事係では、離婚や親権、面会交流など多岐にわたる課題に様々な形で直面している家庭に関わらせていただいています。その中で、日々難しさを感じながらも、考えさせられたり勉強になることにたくさん触れる機会があって、非常に奥深いなと感じています。

いろんなバックグラウンドを持った人が、いろんな思いで働いてるんだなあ

他にも心理学や教育学、社会学などを専攻した調査官が現場で多数活躍中！



Yさん(生活科学部人間福祉学科)  
採用8年目

「家庭裁判所調査官」についてのご質問は、京都家裁企画係まで。

電話:075-722-7211(内線455) ※平日午前9時～午後5時でお願いします。

他の裁判所で働く調査官の声も聞いてみよう！  
YOUTUBEで配信中！ →

